# 令和6年度　学校評価表

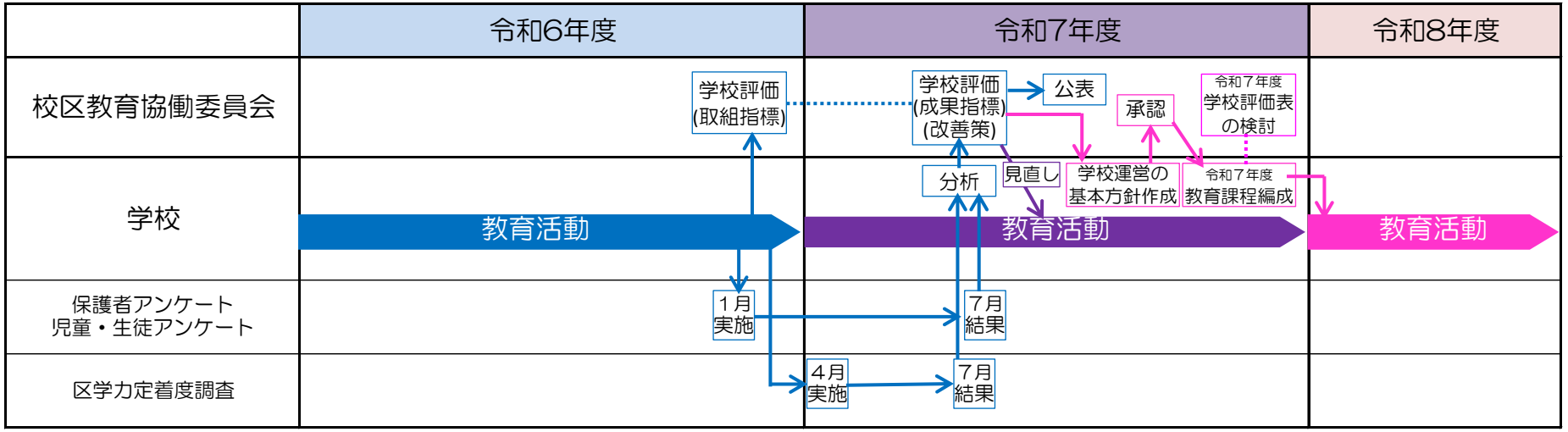
| | | | |
|---|---|---|---|
| 品川区立大原小学校 | 校長 | 隈部　洋子 |
| 大原小学校校区教育協働委員会 | 委員長 | 中村　和弘 |

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

**学校評価の流れ**（※令和6年度の学校評価が令和6年度および令和7年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和６年度　学校評価　品川区立大原小学校

# 評価項目１　学力に関すること

| 重点目標 | ①教科担任制を取り入れ、教師の教科における専門性を生かした指導を行う。<br>・発達段階に応じた段階的な教科担任制の導入<br>②課題解決学習を積極的に取り入れ推進する。<br>・児童が主体的に追究できる課題や活動を設定し、児童が粘り強く取り組むための指導・支援体制を計画的に整える。<br>③基礎学力が定着する授業を展開する。<br>・読む、書く、計算する、について計画的な指導（R:リサーチPDCA）を全校体制で実践し、基礎学力の定着を図る。 |
|---|---|

| 評価指標 | 最上段:成果指標<br>2段目以降:取組指標 | 最上段:成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降:取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 教科担任制を児童の発達段階に応じて取り入れ、児童が学びの目的を理解し、課題解決学習に臨むことができる。 | 高学年において、国語、社会、理科、音楽、図画工作、家庭科、体育の教科担任制を行った。教員の教材研究の時間を確保できた。今後は、授業力向上を目指し、研修体制を充実させていく。 | B | 本校の学級担任１２人のうち、半数は経験年数が４年以下の教員である。教材研究の時間を確保するとともに、OJTによる授業力の向上を目指し、校内での研修体制を充実させる。 |
| | 児童の「なぜ」「どうして」を基に、学習課題の設定・選択できるようにする。体験や経験を重視した学習活動を展開する。また、児童がお互いの考え方を知り、思考の幅を広げるために、ICTを効果的に活用する。 | 授業の中で、児童の「なぜ」、「どうして」のつぶやきを大切にし、どんな小さな疑問でも見逃さないように意識して授業を行った。ICTの活用については、教員だけでなく児童にもかなり浸透してきている。今後も、学習の効果が高いと思われる場面では、積極的に活用していく。 | A | |
| ② | 国・区学力調査の結果を分析し、学び残しが多い内容を把握する。各教科のワークテスト平均正答率80%を達成できる。 | 各学級で実施しているワークテストの平均は80%前後であるが、上位層と下位層の点の差が大きい傾向が見られる。今後は、下位層の学力の底上げが課題である。 | B | 基礎学力の定着をさらに図るとともに、下位層の底上げを目指し、学力向上委員会を中心に必要な手立てを考えていく。<br>漢字の書きが苦手な児童が多い。重点的に取り組んでいく。<br>授業の中で、児童同士の学び合いの場面の設定を増やすことも、学力向上の有効な手立ての１つになるのではないかという意見があった。 |
| | 基礎タイムのスタイルの定着を図る。年間を通して各学年で実践したことを振り返る。<br>「がんばりウィーク」を中心に、個に応じた指導を行う。また調査結果の分析を基に、学力向上委員会が中心となって日常の授業改善を図る。 | 年間を通して、基礎タイムに取り組む内容を学年で精査し、漢字と算数を中心に実践することができた。<br>がんばりウィークでは、漢字と算数について、１回につき１０問程度の基礎的な問題を解かせ、児童の基礎学力の定着度を見た。合格点に達した児童には別の問題を、合格点に達しない児童には同程度の問題を解かせるなど、個に応じた指導を行った。 | A | |
| ③ | 「対話的な学習活動を促す発問の工夫～自分の考えをもち、すすんで伝え合う子を目指して～」を校内研究の研究主題に設定し、教師の日常的な授業改善により児童の基礎学力の向上を図る。 | 年間通して、特定の教科に絞らずに、様々な教科で研究授業を実施した。各教科の特性を生かし、発達段階に応じた手立てを講じることで、対話的な学習活動を意図的に取り入れ、授業改善を図ることができた。 | A | 研究授業後の協議会では、特に講師を招聘せずに、校内の教員で授業内容についての意見や改善点を話し合った。今年度は、国語が専門の講師を年6回お呼びして、指導していただく。 |
| | 児童の発達段階に応じ、目指す児童像を設定し、教師が日常の授業の発問を工夫することで、対話的な活動の活性化を図り、児童個々の考えの形成につなげる。 | 発達段階に応じた目指す児童を設定することで、より具体的な手立てを設定することができた。授業案を考える際に、教師が普段感じている課題を出し合うことで、それを改善するための具体的な手立てを考え、対話的な活動の活性化を図ることができた。<br>研究授業後の協議会のあり方や方法については、改善の余地がある。 | B | |

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立大原小学校

# 評価項目２　人間性や社会性に関すること

| 重点目標 | | 〇豊かな心を育成する。<br>・生命尊重・人権尊重の教育を全校体制で組織的・計画的に推進する。<br>・教育課程全般において、コミュニケーション能力を育成を図る。 | | |
|---|---|---|---|---|
| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
| ① | 発達段階に応じて、自他の心と体を大切に、相手の立場になって考えたり、誰にでも優しく接したりすることができる児童を育成する。 | 市民科の授業やいいとこみつけ集会などを通して、相手や自分の立場を考える場面を重点的に展開したことで、学年を超えての積極的な交流が見られた。 | A | 異学年が集まる集会では、自分から相手に話しかけられない児童もいる。そのような児童には、教師の意図的な声かけが必要である。 |
| | 各行事や市民科集会、異学年交流での自他に目を向けた指導の工夫や、「さん」付けの徹底、受動・傾聴を重点とした個々への指導を、組織全体で展開する。 | 学校行事や各集会では、異学年交流を積極的に取り入れることで、自他に目を向ける児童が見られた。市民科の授業では、相手のことを思いやる行動の大切さについて考える場面を意識して取り入れ、友達を「さん」を付けて呼び、相手の話を最後まで聴くことを習慣化することで、自他に目を向けて行動する児童が見られるようになった。 | A | |
| ② | 挨拶・礼儀・マナーやルールの大切さについて、教育活動全般において指導・支援を重ね、実践につなげる。 | あいさつについては、自分からあいさつができる児童は2割程度であり、こちらから声をかければあいさつができる児童は7割程度である。まずは、大人からあいさつを率先して行う姿勢を示していく。また、礼儀やマナー、ルールについても、保護者に協力を依頼し、意義のある生活習慣を目指す。 | B | 朝のあいさつについては、あいさつはするものの声が小さい児童が多い。今後も、大人からあいさつを率先して行う姿勢を示していく。 |
| | 「いいことみつけ集会」や代表委員会集会での周知、校外学習時の出発式・帰校式の場面、朝の会や帰りの会での児童同士での見取りや励行を通して、学期毎にクラスで全員は認められ、褒められる場面を設定する。 | 多くの児童が活躍できる場面を学習活動の中で設定し、教員や友達に認められ、褒められる環境を整えて、児童の自己肯定感を高めることに努めた。 | A | |

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立大原小学校

# 評価項目３　体力・健康に関すること

| 重点目標 | ○組織的・計画的に体力向上・健康保持と増進に取り組む。<br>・日常的な運動の場面を設定し、参加率向上に向けて工夫した取組を行う。<br>・コオーディネーショントレーニングの継続により、体幹強化・姿勢保持につなげる。<br>・家庭と連携した食育活動を推進する。 |
|---|---|

| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| ① | 8割以上の児童が、日常的な運動の場にすすんで参加することができる。 | 朝スポ、スポトラ、なわとび週間など、全校児童が運動を楽しみながら取り組むことができる活動を実施したことで、昨年度以上に運動する機会を増やすことができた。 | A | 昨今の温暖化により、夏は熱中症が心配される。気温や熱中症指数には、今後も十分注意しながら行う。<br>朝スポは、大原小学校の大きな特色の1つである。ぜひ、継続してほしいとの意見があった。 |
| | 「朝スポ」「スポトラ」「なわとび週間」や毎日の外遊び・体育館遊びに児童が自主的に参加できるよう、活動内容やカード作り、教員も一緒に取り組む等工夫する。 | 実施期間中は、異学年の児童同士での交流が見られた。また、ボランティアの方々が来校して一緒に遊ぶことで、児童は安心した様子で、安定した参加率となった。 | A | |
| ② | 年間を通してコオーディネーショントレーニングを実践し、体幹強化や授業時の姿勢保持・集中力向上につなげる。 | 年間を通したコーディネーショントレーニングの継続実施により、体幹強化や授業時の姿勢保持、集中力向上を図った。よい姿勢を保持することが難しい児童が多いため、今後も重点的に取り組む。 | B | 学校全体での取り組みは、全教職員の共通理解が不可欠である。持続的な取り組みについては、教職員間で理解啓発を行う。 |
| | コオーディネーショントレーニングを全学年の体育の授業に位置付け、年間を通して継続して実践する。授業の始まりや終わり、話を聞く場面では、「腰を立てましょう」と立腰を促す指示を共通実践し、習慣化する。 | 体育の導入やコーディネーショントレーニング年間を通して取り入れ、児童の意識も定着してきた。「腰を立てましょう」と立腰を促す指示について、全教職員が全教育活動で徹底し、習慣化している。今後、異動により教職員が入れ替わっても、取り組みが持続できるように、教職員間で理解啓発を行う。 | A | |
| ③ | 給食指導や市民科・生活科を中心に、家庭や地域の協力や働きかけを通して、望ましい食生活を習慣化させる。 | 生活科を中心に、野菜の皮むき等の体験活動を取り入れることで、それが給食の食材になっていることや、日々の給食指導により、望ましい食生活を習慣化することができた。 | A | 食育については、学校だけでなく家庭でも関心をもってほしい教育活動である。学校での取り組みを家庭へ知らせ、啓発を図る。 |
| | 担任、栄養士、養護教諭がTTで食育の授業を行い、取り扱った食材を給食で調理し味わう活動を取り入れる。またPTAと連携し、栄養士を講師とした給食試食会を実施し、家庭との連携を図る。 | 食育の授業については、学年の発達段階に応じて計画し、実際に食材に触れたり、栄養士からの講話を聴いたりしながら、望ましい食習慣の定着を図ることができた。また、PTAと連携し、給食試食会を実施し、栄養士から給食のでき方や児童の様子についての講話を聴き、実際に試食することで、給食に対する保護者の関心を高めることができた。 | A | |

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立大原小学校

# 評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

| 重点目標 | | ○生命尊重教育・人権尊重教育と関連したいじめの根絶に向けた取組を推進し、教職員・児童・保護者・地域でいじめを絶対にゆるさない・見逃さない、という共通理解を図る。<br>・迅速かつ誠実な対応が図れるよう、日常的な情報共有に努め、初期対応の段階から組織的に対応する。<br>・教職員が児童理解の視点を多面的にもち、些細なことも確認し合える組織体制を構築する。<br>・ハイパーQUを活用した学級や個人の状況把握や、ICTを活用したアンケート調査等により、いじめの未然防止に努める。<br>・SCや巡回心理士、必要に応じてHEARTS、区教育委員会、警察等の外部機関とも連携して対応する。 | | |
|---|---|---|---|---|
| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
| ① | 生命尊重教育・人権尊重教育と関連させ、「いじめを絶対にゆるさない・見逃さない」という意識を児童がもてるよう、市民科等の授業を工夫する。また、児童の様子や変容を丁寧に捉え、いじめ対策委員会による迅速な組織対応が図れるようにする。 | 「いじめをゆるさない・見逃さない」という意識を常にもち、行動につなげていけるよう児童と教職員が一体となって取り組んだ。定期的な情報交換や突発的な事態対応のどちらにおいても、迅速かつ組織的に連携を図り、見逃しや放置を防ぐことができた。<br>今後は、いじめ重大事態の対応等、より一層の理解啓発と組織対応を図る。 | A | いじめ対策委員会を定期的（月１回以上）に開催し、児童の様子を共有するだけでなく、具体的な対策を検討し、品川区のデータも参考にしながら、組織的な対応のより一層の充実を図る。<br>いじめ行為へのシンキングエラーを、児童、保護者、教職員が減らすことができるよう、区のいじめ防止研修で学んだことを共有する。<br>いじめ防止の取り組みを、もっと保護者に知らせてほしいとの要望があったので、学校便りで知らせた。 |
| | 教職員はすすんで児童と関わり、一緒に遊んだり、話したり、様子を観察したりしながら、指導が必要な場面では躊躇せず働きかけるようにする。また、管理職への報告を徹底し組織的な対応を図る。さらに、毎週の学年会や生活指導夕会を開催し、細やかな情報交換と具体的対策の検討を行う。 | デイケンを毎日実施するとともに、定期的なアンケートを行い、児童からの訴えを担任や学年主任、管理職が聞き取りをした。<br>本校では、学年団を結成し、学年や学級の枠を超え、担任以外の教員も各学級に携わっている。児童と保護者にはこのことを周知し、相談や対応の幅を広げることで、迅速で組織的な対応へとつなげることができた。毎週金曜日には、生活指導夕会を実施し、全体への情報共有を継続して行っている。 | A | |
| | 全学年でハイパーQUテストを実施し、児童の実態を多面的に分析する。結果を保護者にも伝え、家庭と連携を図る。<br>一人一台タブレット端末を活用し、日常的に児童の心身の状態を把握し、アンケート調査で児童が相談できる選択肢を増やす。 | 児童の学級満足度や学校生活意欲の結果から、個々の様子と現在の学級集団の状況との両方を把握することができた。結果を保護者と共有することで、学校と家庭が連携し、個々に応じた手立てを考えることができた。<br>一人一台のタブレット端末を活用し、児童の心身の状態を毎日把握し、気になる児童がいれば話を聴くなどして、組織的に対応することができた。 | B | |
| | 目安箱の周知・確認を通して、SCや区巡回相談員、ハーツとの連携を強化し、児童からのどんなSOSにも、組織的に対応できるようにする。 | 目安箱について全児童に周知し、DVD資料「SOSの出し方」を児童に視聴させた。自分が困った時の対処法について、新たな視点で学ぶことができた。また、周囲の友達が困っていた時には放置せず、声をかけたり大人に報告したりするなど、実際に行動に移すことができた。 | A | |

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立大原小学校

公開

# 評価項目５　特色ある教育活動に関すること

| 重点目標 | 〇コミュニティスクールの特色を生かし、「地域を愛し、地域に愛される学校」づくりを推進する。<br>・「校区教育協働委員会」「ふるさと大原支援本部」との協働・協力の下、人と人とのつながりや関わりを大切に、教育活動の広がりと充実につなげる。<br>・金管バンドクラブの活動を、より一層充実させることで、児童と地域との交流活動の推進を図る。 |
|---|---|

| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| ① | コミュニティスクールとしての活動を充実させ、地域の方々との関わりを深める。本年度も、学校評価における肯定的な回答が80%以上となるよう務める。 | コミュニティスクールとしての活動が年々充実してきている。地域との関わりについてのアンケートで、肯定的な回答が80%を超えた。今後は、活動の内容や様子をより広く伝えていく。 | A | 協力いただいているボランティアの方々のお力添えにより、学校内外の掲示や情報発信を定期的に行うことができた。<br>コミュニティスクールが地域に根付き、活動も幅広くなってきた。それに伴い、地域のボランティアの方も変わりつつある。持続可能な取り組みとなるよう、今後もより一層の情報発信を続ける。<br>金管バンドクラブの活動が充実してきた。それに伴い、参加する児童も増加傾向にある。今後も、楽器の整備に計画的に取り組んでいく。<br>学校と町会との連携をさらに深めていきたいとの意見があった。公園花壇花苗植え活動を、年2回に増やせるかどうか検討する。<br>大原小学校は、朝スポや金管バンドなど、子どもたちが活躍する場がたくさんある。さらに子どもたちの居場所が増えていくとよいとの意見があった。 |
| | 「朝のスポーツ健康タイム」、「公園花壇花苗植え活動」、「走り方教室」、「地域防災避難所訓練」、「金管バンド指導補助」、「地域の歴史を聞く会」など、校区教育協働委員の方々や各ボランティア、地域施設や町会の方々と協働し、人と人とのつながりや関わりを重視した教育活動を展開する。 | 各取り組みでは、保護者、町会や地域の方々、卒業生など、実に多くのボランティアの方々に教えていただいたり、参加したりしていただき、大変お世話になった。<br>公園花壇花苗植え活動については、町会へさらに周知を図っていく。地域防災避難所訓練については、昨今の各地での災害を鑑み、今後のあり方について検討し、実践的な内容にしていく。 | A | |
| | 金管バンドクラブについては、児童の参加に加え、地域の方や保護者の方との交流の場としても位置付ける。練習や発表会等、様々な取組を行いながら、活動を活性化につなげる。 | 金管バンドクラブは、昨年度よりも参加児童が増加し、練習がない日でも自主練習に取り組む姿が見られた。全校児童や保護者、地域へ向けた発表の場を設定することで、児童の意欲をさらい引き出すことができた。継続的で充実した活動を維持するためにも、必要な楽器の整備を計画的に進めていく。 | A | |

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成